長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行NO	ＮＯ．５５	報告者	原田伸一郎
年　月　日	２００８年１０月１２日（日）～１３日（月）	2万５千図	鳳凰山
山　　名	地蔵岳（２７６４m）～観音岳（２８４１m）～薬師岳（２７８０m）		
体力度＝４・やや厳しい　技術度＝３・普通　　藪漕度＝ない　道標＝ある　トイレ＝青木鉱泉・鳳凰小屋　　展望度＝良い　　三角点名＝観音岳　　等級＝二等三角点　　温泉＝武川の湯			

オベリスクが聳える鳳凰三山へ

コース とタイム	１２日（晴）＝青木鉱泉着８：００－発８：２０～南精進の滝９：４５～鳳凰の滝１０：３５～白糸の滝１１：４０～鳳凰小屋着１３：５０～鳳凰小屋発１３：５５～地蔵岳山頂着１４：５５～鳳凰小屋着１５：４０
標　高 差	上り＝青木鉱泉１０９６m～地蔵岳２７６４m＝約１６６８m 下り＝地蔵岳２７６４m～鳳凰小屋２３８２m＝約　３８２m
参　加　者	Ａ隊＝ＣＬ後藤隆徳・石和加代子・峰田光江・河野光江　　Ｂ隊＝ＳＬ伊藤従人・伊藤陽子・勝亦国昭　　Ｃ隊＝ＳＬ君山正一・大川章子・世古悦子・土屋弥生　Ｄ隊＝ＳＬ中村圭吾・永尾広・近森正彦・原田伸一郎　　Ｅ隊＝ＳＬ渡辺正巳・山本一　合計１７名

１日目報告　２００８年１０月１２日(快晴)

鳳凰三山への宿泊登山初日、我々の乗ったマイクロバスは、定刻どおり５時過ぎに長泉町を出発した。さわやかハイキングへの参加もこれだけ回を重ねてくると、バスの中で眠る特技も安定度を増して熟睡できる筈が、今回は何故か寝つきが悪い。あっという間に時間が経過して、６時５５分に双葉サービスエリアでトイレ休憩に下車することになった。皆さんの顔を見ると、もうからだは完全に活動できる状態になっている人、起きているのか眠っているのかわからない人、私のように眠りから覚めたくないと睡眠にしがみつく人等、千差万別だったのが強く印象に残っている。７時５分双葉サービスエリアを出発。

まだ現地到着までには１時間以上もあるのに、車中はもう会話モードで盛り上がっている。朝の光が眩しいし、周りの声が弾んでいるし、とても寝ていられないので会話に飛び込んで起きる準備を整えることにした。暫く走って青木鉱泉への分岐道に入ると、まもなく信じられない光景が現出した。

南精進ヶ滝

五色の滝

一言で表現すると、揺れるわ、揺れるわ。こんなすごいデコボコ道を車で走った経験は、ちょっとやそっとでは思い出せない。揺られる時間も結構長かったので、帰りにまた通るのかと思うと憂鬱な気分だった。

８時過ぎに青木鉱泉に到着。揺れから開放され、喜びに満ち溢れた至福の瞬間だった。当地にある旅館の風呂は冷泉なので、我々は下山後に鉱泉を沸かした別の浴場で入浴する予定とのこと。建屋は古びているが天井が高くて広々しているので、内の様子がどうなっているのか、興味をそそられる鄙びたお屋敷であった。（余談になるが、翌日下山後にここでコーヒーを飲もうという雰囲気が漂った時、これぞ天の啓示とばかり喜んで参加した。）また外部の人が使えるトイレもあり、登山者への配慮もそれなりに感じられた。

８時２０分、青木鉱泉を出発し登りの途に着いた。最初は緩やかな傾斜の登り道だったが、次第に傾斜もきつくなり路面も岩が剥き出してきた。当日の天候は快晴だったので、いくら汗をかいても本当に気分よく歩けた。森の木々も紅葉が始まっており、緑の中から目に飛び込んでくる赤や黄が新鮮だった。ドンドコ沢から聞こえてくる川のせせらぎがまた気持ちいい。もし本日の書記が自分でなかったら、最高の気分に浸れただろうにとよくない考えが浮かんでは消えた。少し歩いて９時１０分頃に本日初めての休憩を取り、数分後にはまた出発した。

９時４５分、南精進の滝に到着。後藤講師によると落差１００ｍとのことだが、実際には一度に１００ｍも落下しているわけではなく、上流から下流にかけて途切れていた。まあ滝はこれからたくさんお目にかかるんだから、小さなことには拘らないようにしよう。

１０時３５分、鳳凰の滝に到着。特段どうこういう滝ではなかったが、それなりの水量があるのでさわやかな気分になれる。次の滝に出会うのを楽しみに、また緑の森を登り続ける。

１１時４０分、白糸の滝に到着。滝を見て開口一番Ｎさんが放った一言は、「こんなに太いんじゃ糸じゃないじゃん！」だった。確かに水量が豊富なので、どこが白糸なのか摩訶不思議。それはさておき、腹も空いてきたので我がＤチームは滝を見ながら昼食を取ることにした。しばらくすると、Ａチームが颯爽と通り過ぎて行く姿が目に入ったが、これ以後鳳凰小屋に到着するまで、Ａチームの姿は一切見ることができなかった。３５分間の休息はやっぱり長過ぎたのかなあ…。１２時１５分出発。

記憶にないが、後で地図を見たら五色の滝の近くも通っていたようだ。白糸の滝と思って滝壺まで下りたのがそうだったのかもしれない。１３時５０分、鳳凰小屋に到着。こんなに早く到着して何をするんだろうと思っていたら、「地蔵岳に向ってすぐ出発するから、荷物を置いて来るように」と後藤講師の声が頭上から降ってきた。

荷物を置くために一旦脱いだ靴をまだ履いている最中なのに、もう後藤講師の姿が見えない。靴の紐も十分結べたかどうかわからないまま、慌てて地蔵岳の方向に駆け出したのが１４時前後だった。

鳳凰小屋主人

１４時５５分、地蔵岳山頂に到着。近くで見るオベリスクは、とてつもなく大きな岩が重なり合って天高く聳えていた。登り始めると、それまでの登山とはちょっと様子が違うのが手に取るように分かる。急な斜面と足場の悪さにも挫けず、やっとの思いで複数のロープが垂れ下がった最後の一枚岩まで辿り着いた。ここから頂上までは１０ｍもないが、足場といえるものは見当たらず、岩登りのテクニックが要求されそうだ。先着の方が躊躇して立ち竦んでいたので、お先にと後藤講師がチャレンジするも無理せずおりる。しかし次に挑戦したＮさんのテクニックは素晴らしかった。あれよあれよと言う間にオベリスクの頂上に立っていた。私も彼に続かんとチャレンジしたが、疲れ果てて腕の力も残っていなかったので無念の自重。後で考えてみると、明日も来るんだからという甘えがよくなかったのか、自重して生命の危機を脱したのか、今でもよくわからない。諦めてオベリスクの岩を下りてくると、地蔵岳の山頂周辺には数え切れないくらいの地蔵が乱立していた。

永尾の登攀

無理をしていたら、私もあの地蔵になっていたかもしれない…。山は素晴らしいけれど、自分の実力を超えるような行動を取ったらいい結果は期待できないのかもしれない。複雑な思いで下山を開始した。

１５時４０分、鳳凰小屋に再度到着。ゆっくり休んで明日に備えようと思ったが、登山客のあまりの多さに、敷布団は２人で一枚の広さしかなかった。１階のドアは開けっ放し

のような状態で、２階に寝ていると鼻をタオルで覆わないと冷たいくらい寒かった。ところが、わずか１ｍ上に寝ていた女性の方々は、翌朝一様に暑かったとおっしゃる。理由がわからないが、ともかく疲れが残った１日だった。

追記　１．林道でマツタケ（栂茸）を沢山収穫した軽トラックを目撃。
２．１７名中テン泊は今回、Ｇ講師のみ。凄い混みようで通路もままならなかった。
３．この日は連休のピークで小屋１００名、テント５０名が宿泊？野外のトイレが４つしかなく長蛇の列だった。
４．地蔵岳には他に、河野・石和・山本が肩まで上った。
５．小屋の夕食はカレーで、結構美味しかったようです。
６．山ではリーダーの指示に従う。オベリスク登攀は、それなり訓練・知識・技術がなければ無理。原田に関しては、リーダーが先に試登。「無理」と判断し止めさせた。

（ごとう）

筆者の登攀

この日地蔵に上ったメンバー

テン場

交流会